

個人差要因及びマンガ作品内の表現がマンガに対する認識・行動に与える影響

○草野颯太¹・上市秀雄²
(¹株式会社CTIリード・²筑波大学)
キーワード：マンガ，認知，選好

Influence of individual differences and expressions in manga on the perception and behavior toward manga

Sota Kusano¹，Hideo UEICHI²
(¹CTI REED Co.,Ltd・²Tsukuba Univ.)
Key Words: manga，cognition，preference

目 的

「この作品は面白い」「登場人物に魅力を感じる」といった作品に対する認識は、作品の内容だけでなく、その表現の仕方による影響を受ける。特にマンガではコマ割やカケアミなど特有の視覚的な表現によって物語や登場人物への認識が変わると考えられる。夏目(1995)は、コマの大きさを工夫することでその内容がより強調されることを指摘しており、岸本ら(1997)は濃度の濃い背景の表現は恐れや悲しみなどの不快感情と結びついていることを示唆している。しかしこれらは一部のコマのみの比較となっており、そうした表現から受ける印象の違いが作品全体への認識や「続きを読みたい」という選好行動にどのような影響を与えるのかは明らかになっていない。そこで本研究では、内容が共通の1話分のマンガ作品で一部の表現のみを変え、作品全体への認識・行動が変わるのかを検討した。また、読者の物語への態度のような個人差要因によって結果に違いが現れるかも検討した。

方 法

調査対象者：23名（男性7名，女性16名/大学生・大学院生16名，社会人6名，その他1名）
調査材料：1話分のオリジナルのマンガ(全17ページ)を作成。1～16ページまでは全て共通の内容で、最後のページのコマのみ、コマ割の偏りの有無・カケアミ(濃度の濃い陰影表現)の有無から4パターンに表現を変えている(図1)。

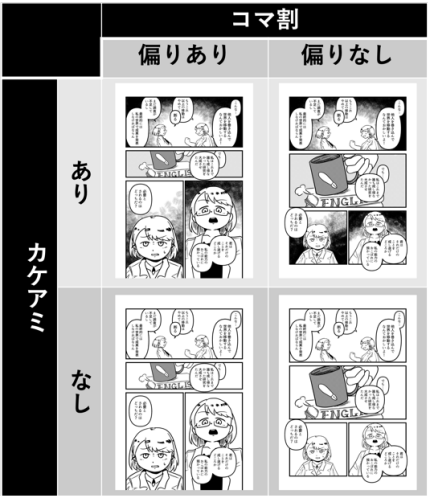


図 1 調査材料

尺度：作品に対する認識(面白さの評価，登場人物に対する魅力度など:5段階)，作品に対する行動(続きを読みたいかどうか:5段階，続きを読むためにどれだけ広告をみてもよいか:7段階，など)，また作品への認識に影響を与える個人差

要因として、物語体験の個人差を測定する尺度(LRQ-J;小山内・岡田,2011)の下位尺度「ストーリー志向」「現実の理解」(5段階)を参考に質問項目を作成した。
手続き：Google Form上において、コマ割・カケアミの表現を変えた4パターンのマンガのうちランダムに1つを調査対象者に提示，上記尺度を通して評定を行った。評定に際して、マンガ作品は何度でも読み直してよいとした。

結 果

コマ割の偏りの有無・カケアミの有無について2元配置分散分析を行ったところ，主人公と敵対する人物(以下「敵対者」)に対する魅力についてのみ，カケアミを使うことで評価値が下がるという主効果認められた($F=6.041$ ， $p<0.05$)。また，個人差要因「ストーリー志向」「現実の理解」について，スコアが平均より高い群と低い群に分け，それぞれにおいて4パターンのマンガに対する評価値についてKruskal Wallis検定を行ったところ，「ストーリー志向」低群において「作品全体の面白さ」の評価値に，「現実の理解」高群において「作品全体の面白さ」「今後ストーリーが面白くなるという期待」の評価値に表現の違いによる差が生じていることが認められた(それぞれ $K=9.00$ ， $p<0.05$ ， $K=8.56$ ， $p<0.05$ ， $K=8.28$ ， $p<0.05$)。ただし，多重比較を行ったところ，有意な差は見られなかったが，大まかにはコマ割・カケアミを使うことで評価値が上がる傾向がみられた。

考 察

カケアミという陰影表現を使うことによってそのコマの中心人物(ここでは敵対者)の魅力を下がっていたことから，最終ページの表現方法を変えることでそこまでの内容が同一にも関わらず登場人物の印象が変わることが示唆された。また，物語への態度の個人差と表現の効果との関係も示唆され，ストーリーへの関心が低い人やマンガから学ぶ姿勢の強い人はコマ割・カケアミをつかうことでより面白さや期待感を感じるようになる傾向がみられた。より詳細な分析のため更に多くのデータを集めることや調査材料の条件を変えて調査し結果を一般化することが今後の課題である。

引用文献

岸本留美子，小高直樹，& 井上誠喜. (1997). 2-9 漫画における感情表現と背景パターン. 映像情報メディア学会冬季大会講演予稿集 1997, 75.
夏目房之介. (1997). マンガはなぜ面白いのか—その表現と文法. 日本放送出版協会.
小山内秀和・岡田斉. (2011). 物語理解に伴う主観的体験を測定する尺度 (LRQ-J) の作成. 心理学研究, 82(2), 167-174.